医療連携 つつじ
2016年7月
28号

東京山手メディカルセンター　〒169-0073 新宿区百人町3-22-1
総合医療相談室 ☎ 03-3364-0366　FAX 03-3365-5951　http://yamate.jcho.go.jp/

TOPIX

- 地域包括ケア推進室について／院長　万代　恭嗣
- 着任のご挨拶／糖尿病内分泌科 部長　山下　滋雄
  あし（末梢血管外科）外来のご案内
- 外来診療担当表
- 糖尿病教室のお知らせ・直接申し込める検査のご案内

地域包括ケア推進室について

院長 万代　恭嗣

私共、独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO、ジェイコー）の使命の第一番目には、「地域医療、地域包括ケアの要として、超高齢社会における地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支えます」と掲げられています。

そこで、今回はこの使命を果たすための方策のひとつとして設置された地域包括ケア推進室についてご紹介いたします。この推進室は、JCHOに属する全国57病院のすべてに設けられており、当院での組織体制は図のようになっています。

その詳細に触れる前に、そのバックグラウンドとなる施策について、簡単に触れたいと思います。すでにご存知のごとく少子高齢化社会が本格的に始まる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される体制構築を目指すことが、地域包括ケアシステムです。近年では、医療のより強い関与が求められるようになってきました。

地域包括ケアシステムの原点は、現在は尾道市となっている広島県の御調町にあります。この町にある病院が、40年ほど前から実践してきた、医療のみならず保健と福祉とを、病院長の下で一元的に管理するシステムです。たとえば、外科手術後にリハビリを受けて退院した高齢の患者さんが、在宅へ復帰後に寝たきり状態になることを防ぐために始めた「出前医療」が、その代表例であり、これがきっかけとなってシステムとして構築されてきており、同様のシステムが全国各地で行われるようになってきています。

ただし、日本全体をみれば、いろいろな地域があります。人口ひとつをとっても、これが横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。したがって、単一の地域包括ケアシステムはあり得ないことも、すでにご承知のとおりであり、厚労省のホームページでも、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要、とされています。とくに当院が立地する東京などのような都会では、公共交通機関が発達し、どこへ行くにも便利なため、対象の「地域」はより広域となると考えています。

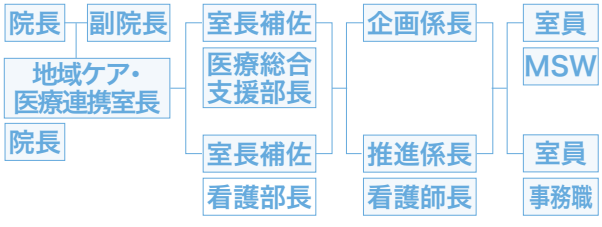
このような状況のなかで、当院では平成27年3月に地域包括ケア推進室が設置されました。昨年度の活動を纏めると、地域の医療・介護・福祉機関との顔の見える連携を旨として、病院全体としては地域連絡協議会を利用しての情報交換を、各部門レベルでは老健・訪問看護ステーションとの連携活動、ならびに院内教育研修の実施をおこなってきました。具体的には、当院のごく近くにある新宿区高齢者総合支援センターのスタッフと地域医療協議会や実際の患者さんについての相談の機会を通じて、密接な連携活動をしています。地域の医療機関とは、大腿骨頚部骨折、脳卒中、骨粗鬆症の地域連携パスを用いて患者さんを紹介しており、さらに地域のかかりつけ医と共同で作成したCOPD地域連携パスの運用を28年度に開始予定です。また、医療連携研究会の開催や、大学病院における急性期病院と連携する回復期病院との会合などを通じて、意見交換をしています。

体制強化としては、この医療連携つつじ25号で紹介いたしましたように、呼吸器内科の笠井昭吾先生が医療総合支援部の部長として、第一線に立った活動をしています。地域への情報発信にも腐心しており、まず医療機関を中心として本通信をお配りしています。一般の方や患者さん向けには「つつじ通信」を発行して当院の診療機能をていねいに紹介するとともに、看護部主催の看護フェスタ、健康フェスタでは、健康維持に役立つ健康チェックをしています。同時に、当院医師による「長寿と向き合う」等のテーマの講演や脳梗塞と認知症講座の開催を実施し、毎回特設の在宅支援のための相談コーナーは特に好評を得ています。

今年度の活動としては、4月より地域診療・救急部門を立ち上げ、これまでの医療総合支援部の事務的役割に加え、診療部門としての救急および地域の後方支援の役割を強化しております。また、入院期間中から引き続いて、退院後の患者さんの生活等を見据えた出口機能の役割も強化していく所存です。

本部からは、各病院が果たす役割を検討するにあたって、自治体や医師会、周囲の医療機関・介護事業所等との連携体制等の醸成が必要、との指示です。地域包括ケアシステムを理解するためのキーワードである「多職種協働」の理念のもとに、皆様と一致協力して進めてゆきたいと考えておりますので、当院主催の医療連携講演会にも是非足をお運びいただきその活動を評価いただくなど、今後もご指導ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

地域包括ケア推進室組織図
東京山手メディカルセンター　H28.4　改編



▶着任のご挨拶

糖尿病内分泌科 部長　山下　滋雄

着任のご挨拶

昨年12月まで医長をお務め頂いた田中隆久先生の後、齊藤壽一先生ご指導の下で４月１日に着任いたしました。これまでに勤務した東京大学糖尿病・代謝内科、東京女子医科大学糖尿病センター、虎の門病院、JR 東京総合病院、永寿総合病院での経験を基に、信頼して頂ける糖尿病専門施設に発展できますよう、努力して参ります。齊藤、山下の他、スタッフとして三木郁医師、中嶋歩医師がおり、非常勤医師とともに病棟・外来での診療にあたっています。

診療の状況

教育入院は１週間コースと２週間コースを基本としていますが、柔軟に対応します。外来や救急外来からの緊急入院にも対応できます。

入院中は毎朝回診を行い、日々変わる病状に対応しています。毎週水曜日の午後には近見、多田２名の糖尿病看護認定看護師を中心とした多職種によるチームカンファランスを開き、各患者さんの病態・病状はもちろんのこと、病気に取り組む姿勢から家庭環境、人生観に至るまで情報を共有できるようにしています。他科入院中の糖尿病を合併している患者さんにつきましても毎週月曜日にチームでラウンドしており、他疾患で入院中にも糖尿病を悪化させないように治療を継続しています。

24 時間の血糖変動を観察できる CGMS(continuousglucose monitoring system)を外来、病棟で実施しており、インスリンのポンプ治療(CSII; continuous subcutaneous insulin infusion)にも積極的に取り組んでいます。血糖値やトレンドがリアルタイムでわかる、SAP(sensor augmented pump)療法も導入可能です。

糖尿病だけでなく、内分泌疾患の患者さんも多く診察しています。甲状腺疾患、原発性アルドステロン症などの副腎疾患や下垂体疾患についても診断・治療実績があります。

医療連携

人口の高齢化に伴い、高齢者糖尿病の方が増えてきています。糖尿病とAlzheimer型認知症との因果関係も解明されつつあり、認知症も糖尿病の合併症と考えられています。インスリン治療が必要であるけれども認知症を有する高齢の糖尿病患者に対してどのようにアプローチしていくかということで頭を悩ませる場面が増えてきています。

２日近く持続する持効型インスリンアナログ製剤や、週に１回投与のGLP-1受容体アナログ製剤などが使用できるようになりましたが、献身的に治療をバックアップして頂けるご家族をお持ちでない独居老人に対してもできる限りの標準的治療を行うためには、患者さんのご自宅近くにいらっしゃる先生方に是非ともご協力を仰がなくてはならないケースも多々あり、病診連携を強化することが必要であると感じています。

患者中心の診療を目指して

「熊本宣言 2013」以後、糖尿病の治療は、「よい」「悪い」という価値判断によって評価されるべきではなく、治療目標は個別に設定すべきであるということになりました。病態中心から患者中心の医療へと、糖尿病診療は性質を大きく変えつつあります。患者さんの生活背景や思想・信条、嗜好、人生における糖尿病治療の優先順位など、そのようなことを一篇の物語として把握した上で、初めて治療法の選択が可能となります。教科書に書いてあるような模範的な患者生活を送れる人などむしろ稀であるという認識を出発点として、患者に共感し、患者に寄り添い、よきアドバイスが送れるようなスタッフ・チーム作りを目指しています。

あし(末梢血管外科)外来のご案内

生活習慣病の増加、高齢化により、下肢の血管病は増え、歩行障害など日常生活に支障をきたします。脳梗塞や心筋梗塞など全身の動脈硬化症の一部分症として、下肢の血管病を専門医が早期に診断・治療を行うことが大切です。また、立ち仕事や肥満、下肢静脈瘤や深部静脈血栓症、廃用によるリンパ浮腫などの静脈リンパ疾患は適切な時期に診断・治療方針を立てることが肝要です。

【対象疾患】

閉塞性動脈硬化症(ASO)、糖尿病性足病変(DM foot)、Buerger病、下肢静脈瘤、深部静脈血栓症(DVT)、リンパ浮腫、むずむず足症候群、あしの痛み、しびれ、むくみ、かゆみ、冷え、歩行障害、ムズムズなどがあればご相談下さい。

【検査】

痛みを伴わない、非侵襲的検査を優先し、必要に応じてCTAやMRA、血管造影検査を行います。トレッドミル歩行や爪先立ち運動による負荷ABI検査も行っています。

【治療】

①運動療法、生活習慣指導(禁煙・食事療法など)
②薬物療法
③外科的治療
　動脈疾患：バイパス手術
　静脈疾患：静脈瘤抜去術、硬化療法
④血管内（ステント）治療

【外来日・担当者】

第 2,4水曜日(午後)・心臓血管外科医長：恵木康壮

(完全予約制)

※平日の14～16時にお電話でご予約下さい。
　総合医療相談室　03-3364-0366

①血管(動・静脈)エコー検査

②足関節上腕血圧比、
脈波伝播速度(ABI/PWV)検査

※医師の指定がある場合は、お電話にて休診をご確認ください。　※午前の受付時間は 8：30 ～ 11：00 です。
※内科初診担当は交替制です。

外来診療担当表

◆受付時間を過ぎる場合や緊急の場合は総合医療相談室にお問い合わせください。

2016 年 6 月 30 日

診療科			月	火	水	木	金
内科	午前	初診担当	三浦英明 / 吉本宏	吉村直樹 / 岡野荘	山下滋雄 / 大河内康実	鈴木茉由 / 結城将明	下村浩裕 / 米野由希子
		循環器	笠野健介【循】初診	渡部真吾【循】初診	薄井宙男【循】	薄井宙男【循】初診	仲村太一【循】初診
			伊東秀憲【循】	村上輔【循】	市川健一郎【循】初診	伊東秀憲【循】予約	鈴木篤【循】
		呼吸器	笠井昭吾【呼】 江本範子【呼】	徳田均【呼】	江本範子【呼】	石森太郎【呼】	徳田均【呼】 大河内康実【呼】
		消化器	木村祐介【消】	畑田康政【消】	斎藤聡【消】	畑田康政【消】	
		炎症性腸疾患	高添正和【炎腸疾】 吉村直樹【炎腸疾】	河口貴昭【炎腸疾】			吉村直樹【炎腸疾】 酒匂美奈子【炎腸疾】
		肝臓		三浦英明【肝】		三浦英明【肝】	
		血液		米野由希子【血】	柳富子【血】		
		糖尿内分泌	山下滋雄【糖】 三木　郁【糖】	杉山雄大【糖】	齊藤寿一【内分】 三木郁【糖】	齊藤寿一【内分】 山下滋雄【糖】	山下滋雄【糖】 中嶋歩【糖】
				西田潤子【健増】	小林晶子(リ膠)要予約		
				西村和華【予約メンタル】	吉本宏【腎】	根本康【予約メンタル】	五十嵐奈央子【腎】
	午後 予約外来	循環器	村上輔【循】	渡部真吾【循】	山本康人【循】	【ペースメーカー外来】	
				村上輔【循】		市川健一郎【循】	
		呼吸器	大河内康実【呼】	茂田光弘【呼】	笠井昭吾【呼】	徳田均【呼】	
		肝臓		藤永秀剛【肝】		三浦英明【肝】	
		炎症性腸疾患	吉村直樹【炎腸疾】		高添正和【炎腸疾】	高添正和【炎腸疾】	吉村直樹【炎腸疾】
					酒匂美奈子【炎腸疾】	酒匂美奈子【炎腸疾】	高添正和【炎腸疾】
		消化器	新井典岳【消】	斉藤聡【消】			田中龍【炎腸疾】
		血液	柳富子【血】		柳富子【血】		
		増進	市川健一郎【健増】	今澤知子【健増】			西田潤子【増進】
		糖尿	實重真紀【糖】	斉藤寿一【糖】	藤林和俊【糖】	五十嵐弘元【糖】 中嶋歩【糖】	三木郁【糖】
		腎臓	秋山美奈子【腎】		秋山美奈子【腎】	下村浩佑【腎】	
大腸・肛門科		午前	山名哲郎	佐原力三郎	古川聡美	岡本欣也	岡田大介
			岡本欣也	山名哲郎	岡田大介	佐原力三郎	古川聡美
		午後	森本幸治		西尾梨沙		西尾梨沙
外科		一般外科	日下浩二	万代恭嗣	伊地知正賢	奇週日下 / 偶週伊地知	奇週万代 / 偶週堀
			阿部学	柴崎正幸	病理診断科　飯原久仁子	宮治美穂	柴崎正幸
		呼吸器外来	高橋健		森田理一郎	森田理一郎	
		心臓血管外来		惠木康壮	高澤賢次		
		午後予約外来			午後足外来 2.4週 恵木	午後ソケイヘルニア 伊地知	午後乳腺　柴崎
産婦人科		婦人科予約	後藤美希＋佐原友妃子	野村香央里＋市川麻佑子	小林浩一＋海野沙織	樋口紗恵子	坂巻健＋飯塚奈緒
		婦人科予約外	飯塚奈緒	【交代制】	市川麻佑子	【交代制】	海野沙織
		産科午前	樋口紗恵子	【交代制】	佐原友妃子	手塚真紀	後藤美希
		産科予約外来		野村香央里		【交代制】	
整形外科		午前	交代制【整形】	田代俊之【整形】	飯島卓夫【整形】	飯島卓夫【整形】	飯島卓夫【整形】
			早坂豪【脊椎】	森田裕之【整形】	奇中村．偶森田【整】	侭田敏且【脊椎】	田代俊之【整形】
			偶週　侭田敏且【脊椎】	仲田紀彦【脊椎】	脊椎初診 10 時迄	早坂豪【脊椎】	仲田紀彦【脊椎】
		午後予約外来				早坂【骨粗鬆】	田代【膝】 飯島【腫瘍】
脳外科		午前	小山俊一	武田泰明	高草木宏之	武田泰明	小山俊一
			初診救急のみ		紹介救急（小山）	神保洋之	紹介救急（武田）
		神経内科完全予約	中村容子【予約のみ】 9：00 ～ 12：00		叶内匡【予約のみ】 14：00 ～ 17：00		
小児科		午前	右田　真	右田　真	右田　真	松本多絵	右田　真
			松本多絵＋峯牧子	松本多絵＋峯牧子	松本多絵	峯牧子＋田嶋華子	峯牧子＋高木篤史
		午後予約制	右田＋松本	右田＋松本＋峯	右田＋松本＋峯	松本＋峯＋右田	右田＋峯
		乳児健診	交代制	交代制	交代制	交代制	交代制
		予防接種	交代制	交代制	交代制	交代制	交代制
眼科		午前	地場達也	地場達也＋非常勤	地場達也	地場達也＋藤野雄次郎	地場達也
泌尿器科		午前	松本龍貴	加藤司顯	加藤司顯		加藤司顯
		午後予約外来		加藤【予約】	松本【予約】		松本【予約】
耳鼻科		午前	1.3.5 週　牛尾＋牧角	小村さやか	牛尾宗貴	牛尾宗貴	牧角祥美
			2.4 週 今井直子	平野真希子	牧角祥美	小村さやか	小村さやか
		午後		午後　牧角祥美		牛尾【予約】	
皮膚科		午前	鳥居秀嗣	仲優	鳥居秀嗣	鳥居秀嗣	鳥居秀嗣
			渡邉光子	渡邉光子	渡邉光子	渡邉光子	渡邉光子
		午後	【手術予約】	鳥居秀嗣	渡邉光子	【手術予約】	【手術予約】
歯科			中野雅昭＋熊谷順也	中野雅昭＋熊谷順也	中野雅昭＋熊谷順也	中野雅昭＋熊谷順也	中野雅昭＋熊谷順也

※赤字は女医

糖尿病教室のお知らせ

会　場　大会議室（3 階）食事会のみ研修センター（2 階）
時　間　14:30〜16:00（食事会のみ11:30〜13:00）

参加費　無料　食事会のみ 1 回について800円
※糖尿病に関心のある方はどなたでもご参加ください。

スケジュール

2016年　6月10日（金）	薬物療法とその注意点 担当　薬剤師	2016年11月25日（金）	薬物療法とその注意点 担当　薬剤師
2016年　6月24日（金）	知って得する！検査の話 担当　臨床検査技師・医師	2016年12月　9日（金）	知って得する！検査の話 担当　臨床検査技師・医師
2016年　7月　6日（水）	日常生活、旅行と災害時について 担当　看護師・保健師・医師	2017年　1月12日（木）	日常生活、旅行と災害時について 担当　看護師・保健師・医師
2016年　7月22日（金）	歯周病と糖尿病 担当　歯科医師	2017年　1月27日（金）	歯周病と糖尿病 担当　歯科医師
2016年　8月　3日（水）	糖尿病網膜症について 担当　眼科医師	2017年　2月10日（金）	糖尿病網膜症について 担当　眼科医師
2016年　8月25日（木）	あなたの足は大丈夫ですか？ 末梢血管病変について 担当　心臓血管外科医師	2017年　2月24日（金）	あなたの足は大丈夫ですか？ 末梢血管病変について 担当　心臓血管外科医師
2016年　9月　8日（木）	足を守ろう！糖尿病患者さんの フットケア・神経障害について 担当　看護師・保健師・医師	2017年　3月　9日（木）	足を守ろう！糖尿病患者さんの フットケア・神経障害について 担当　看護師・保健師・医師
2016年　9月29日（木）	食事会　11:30〜13:00 担当　管理栄養士	2017年　3月23日（木）	食事会　11:30〜13:00 担当　管理栄養士
2016年10月14日（金）	知って安心！糖尿病 担当　医師		
2016年10月27日（木）	食事会　11:30〜13:00 担当　管理栄養士		
2016年11月11日（金）	運動療法のポイント 担当　理学療法士		

お問い合わせは　東京山手メディカルセンター内科２外来まで
代表 03-3364-0251（内線2190）　月〜金　14時〜17時

※当日はメモ、筆記用具、食品交換表（お持ちの方）などをご持参ください。食事会のみ、事前予約が必要となります。

※食事会のみ、事前予約と参加費（１回 800円）が必要となります。一般的なエネルギー調整食を準備しています（タンパク質の制限には対応しておりません）。１週間前までに内科２外来受付にてお申込みください。

※糖尿病の栄養指導も行っておりますので、お気軽にご相談ください。

直接申し込める検査のご案内

以下の検査は直接予約できます。 お気軽にご相談ください。

放射線検査	・単純CT　単純MRI･MRA ・胃透視　一般撮影　骨塩定量 ※CDの場合は直接手渡しできませんので、お手元に届くまでに3〜5日程お時間を要します。
内視鏡検査	・胃内視鏡 ・大腸内視鏡
生理検査	・腹部超音波、甲状腺超音波･頸部超音波 心臓超音波 ・脳波

電話 申込み
●受診者名　●生年月日　●連絡先TELの確認をします。

▼

検査前処置のご案愛
●検査前準備の案愛をFAXにて送ります。

▼

受　診
●紹介状、保険証、必要時検査同意書などご持参ください。

▼

結果のご報告
●郵送にて報告いたします。

東京山手（やまて）メディカルセンター

〒169-0073 新宿区百人町3-22-1

総合医療相談室　☎　03-3364-0366
FAX 03-3365-5951
http://yamate.jcho.go.jp/

この冊子は環境にやさしい有害廃液の出ないクリーン印刷で作成しています